

序 説

若手放射線科医を主な対象とした「地力が伸ばせる ○○○」をテーマとする本特集、乳房領域の編集をご依頼いただいた際、乳腺・乳房という単一臓器をどのようにまとめるべきか大いに悩んだ。モダリティ・疾患ごとにまとめると、単一臓器だけに専門性が高い領域に踏み込まざるをえなくなるが、これまでに質の高い特集や教科書があり、本特集の企画にもそぐわないように感じた。そこで後輩の若手放射線科医何名かに聞いたところ、乳腺領域は「乳房MRIの読影が最も身近で最も困る」という意見が多かったため、思い切って乳房MRIに絞り「地力が伸ばせる 乳房MRI診断」として特集を組むこととした。

乳房MRIは乳腺診療における必須のモダリティで、一般に普及した検査といえる。放射線科医は診断業務の一環として乳房MRIのレポートを作成する機会があるが、わが国では乳腺を専門とする放射線科医は少なく、乳房MRI診断に対する苦手意識をよく耳にする。本特集では、まず、乳房MRI撮影の基礎を編者が、そして乳房dynamic MRI、造影病変ごとの評価方法を京都府立医科大学の喜馬真希先生ら、東京医科歯科大学の森 美央先生ら、名古屋大学の石垣聡子先生らに解説いただいた。多くの症例を提示いただき、造影病変の解釈の仕方がピットフォールも含めて大変理解しやすい内容となっている。神戸市立医療センター中央市民病院の金尾昌太郎先生には、造影MRI以外のシーケンスについて、基本のdynamic MRIに追加することで得られる臨床的に有用な情報を大変わかりやすくまとめていただいた。静岡県立静岡がんセンターの中島一彰先生らには、乳房MRIを読影するにあたり、理解しておきたいマンモグラフィと超音波の重要性についての執筆を依頼させていただいた。編者は乳房MRIの読影を入口として乳腺画像診断に携わるようになったが、症例を重ねるうちに乳房MRIの読影において、基本のマンモグラフィと超音波の情報がいかに重要であるかを痛感するようになった。若手の先生方も日々のMRI読影において、ぜひマンモグラフィ、超音波を参照するところから心がけていただきたい。最後に診療で最も頻度が高いMRI依頼内容である、乳癌広がり診断を亀田総合病院の町田洋一先生らに、術前治療効果判定を天理よろづ相談所病院の太田理恵先生らに解説いただいた。どちらも充実した内容で、明日からのレポート作成に即活かせる情報が満載である。

乳腺領域の本特集は、これまでの「地力が伸ばせるシリーズ」とは異なった切り口となったが、ご執筆いただいた先生方のご尽力により、放射線科医にとって最も身近といえる乳房MRIについて、すぐに診療に役立つ大変充実した特集になったと感じている。お忙しいなか本特集の執筆を引き受けてくださった先生方にあらためて感謝の意を伝えるとともに、本特集がみなさんの明日からの乳房MRI読影に役立つことを願っている。

後藤眞理子